

一人一台タブレットの
効果的な活用に向けて

12月9日、大山町教育委員会は、兵庫教育大学とタブレット端末の効果的な活用に関する研究の共同事業契約を締結しました。

大山町内全ての児童生徒にタブレットが整備され、その活用方法が各学校において研究・実践されています。今回の共同事業は、各学校の取り組みをさらに後押しするものとなります。

兵庫教育大学の加治佐学長からは、「新しい分野の教育について、共同研究できることは非常に意味のあること」との言葉をいただきました。驚見教育長からは、「教育の最先端を進んでいる兵庫教育大学と共同研究できることは、大山町教育に大きく寄与するものとなる」と期待のこもった話がありました。



▲オンラインで行われた締結式

大山町五色百人一首大会

12月19日、福祉センターなかやまで標記の大会が行われました。町内の「腕に覚えあり」の小学生30人が集まり、熱戦を繰り広げました。

◆入賞チームを紹介します



優勝
「はやぶさ」
小池 愛さん
西村良美さん
小池穂高さん



準優勝
「大山USM」
押本羽未さん
清水紗月さん
渡邊恵妃さん



第3位
「むささび」
田中玲生さん
原田翔琉さん
中本理月さん



第3位
「チビキングEX」
伊澤悠介さん
陶山 蓮さん
杉本 凧さん

親子でプログラミング体験会

12月11日、福祉センターなかやま同会社エッグ総研と大山町教育委員会の共催により、標記体験会が行われました。

LINE社の「LINE ENTRY」という体験ツールを使い、LINEでおなじみのキャラクターをミッション通りに動かしながらゲーム感覚でプログラミングの初歩を体験しました。

参加した小学生の親子15組のみなさんは、額を寄せ合いながら、協力してミッションに挑んでいました。初歩とはいえ、大人も苦戦する難しいミッションもありましたが、子どもたちは柔らかい発想力で次々にミッションをクリアしていました。



▲お父さんやお母さんと相談しながらミッションに挑戦します

わが家の家読
うちどく

図書館本館では、「家読」(家庭での読書)に取り組んでおられるご家庭の実践例を募集しています。お寄せいただいた実践例を、この紙面で随時紹介しています。

わが家の家読に決まりはありませんが、寝る前に絵本を読む習慣があります。三人兄弟なのでなかなか全員に読み聞かせをすることが出来ず、わたし(母)は毎日悔しいです。読み聞かせの順番や場所取りで喧嘩も勃発します。困ってお父さんをお呼びのですが、今度はそっちの読み聞かせの声がうるさくて読めません。それでも絵本の時間がみんな大好きです。

選ぶ本を通じて子供の興味が分かり、傑作に出会うと感動して嬉しくなります。笑える本も泣ける本も、考えさせられる本にも沢山出会えたのは、子供達と近所の素晴らしい図書館のお陰です。

《オススメの絵本》

「またまたねえ、どれがいい?」

ジョン・バーニングガム 評論社

S・A (30歳代女性)

